

「とんだ 飛んだ」天まで高く

竹細工教室で竹とんぼ作り

○ 学期毎に3つの小学校で

竹細工教室は、仲善地区では毎年行ってきたが、平成 25 年度は松楠会支援事業として実施することにした。

松楠会支部活動の輪を一層広げる意味もこめて、1 学期は仲南小学校で行い、2 学期は善通寺南部小学校、3 学期は筆岡小学校で実施した。いずれの学校も第 4 学年の児童たちで、総合学習の時間を活用した。「体験してよかった」という児童の好評にやりがいを感じる事が出来た。

講師は、元教員で竹細工や陶芸に秀でた才能を持ち、多方面で活躍している香川孝典氏を中心に森江照氏と香川佳子氏の 3 人でチームを組んだ。より成果を挙げようと渉外、会計、手伝いその他を分担したのである。

○ 初体験 注意深く

竹とんぼ作りは、羽作りとそれを支える心棒作りである。羽・心棒の素材は参加人数に合わせて講師が用意してある。児童たちは夫々を丁寧に仕上げているのである。そのために、①竹を削るために小刀を使う、②竹の羽を曲げるためにアルコールランプを使うことになる。ほとんどの児童は初体験であった。講師陣は小刀の使い方等をまず実技を交えて詳しく丁寧に指導した。グループ内の班長の役割や使う順序もよく理解させた。先を急ぎすぎると取り返しの付かないことになるからである。

○ 協力し合うよさを味わう

グループの人数より小刀の数が少ない。アルコールランプも班に 1 つである。時間内に全員が仕上げるためにはルールに従って協力し合わなければならない。夫々が努力しながら協力している姿はほほえましい。「お先にどうぞ」「次は私よ」と声掛け合いながら和やかに作業を進めていた。竹の素材からとんぼに仕上がっていくことはグループで協力し合うことのよさを味わっていることでもある。

○ 指導者への信頼と感謝のまなざし

竹とんぼ作り体験は連続 2 時間をかける。制作に約 1 時間、飛ばして楽しむのに 1 時間を当てている。児童たちはみんな指導者を取り囲み「先生、先生!」と語りかけてくる。うまく飛ばなくても、指導者がすると高く飛ぶこともある。その時うれしそうな顔は自分の作品への愛情であろう。児童たちの表情には、指導者への信頼と感謝のまなざしが伺われる。



児童たちにやり方の手本を見せる香川指導者



「さあ飛ばそう！」 2014年1月14日 筆岡小学校にて